

第6章 復興状況

震源に近い山間部の農村地区である映秀、震源から約 90km 東北東に離れた山間部の町である漢旺、震源から約 55km 東北東に離れた山間部の町である白鹿では、町全体が壊滅的な被害を受けたと見られ、写真 6.1 に示すように現時点においても大半の住民が仮設住宅で生活しているようであるが、映秀や白鹿付近においては写真 6.2 に示すように自らの手で住宅を再建している姿も散見された。また、震源から約 20km 東に位置し、断層に近い人口約 25 万人の都江堰市街地では、写真 6.3 に示すようにいたるところで 4～6 階建て程度の枠組組積造の集合住宅が大きな損傷を受けており、現時点においてもきわめて多くの住民が仮設住宅で生活している。しかし、写真 6.4 に示すように 1 階が店舗で 2 階以上が住宅となっている被害建物では 1 階が RC 造で 2 階以上が枠組組積造という構造形式が一般的であり、1 階の損傷の程度が比較的軽微である場合には 1 階の店舗のみを使用している建物も多く見られた。今回の調査過程で面会する機会があった成都市規画管理局の担当者によれば、農村地区の復興をどのようにすればよいか現時点においても苦慮しているとのことであった。



写真 6.1 山間部（映秀）における仮設住宅



写真 6.2 山間部（映秀）における住宅再建の様子



写真 6.3 市街地（都江堰）における枠組組積造集合住宅の被害



写真 6.4 市街地（都江堰）における店舗併用住宅
（1階はRC造2階以上は枠組組積造）の被害